

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成22年11月1日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0872800065		
法人名	社会福祉法人 慈光学園		
事業所名	グループホーム 北向内荘	ユニット名	北向内荘①
所在地	〒306-0504 茨城県坂東市生子1609-8		
自己評価作成日	平成22年5月18日	評価結果 市町村受理日	平成22年10月25日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報	茨城県福祉サービス振興会のホームページ「介護サービス情報検索」から情報が得られます。
------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成22年7月8日	評価確定日	平成22年10月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>グループホームの法人母体は、地域で永年により障害児・者関係の福祉施設を運営しており、経験豊富な職員が人事交流を図りながら、利用者の介護等に努めている。 「気兼ねなく暮らせる第二の我が家」を基本理念とし、全職員が各自の責任や役割のもと、利用者が居心地良く暮らせるよう支援している。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>利用者が地域の中で安心して暮らし続けられるように、近隣の人々との交流を大切にしている。 利用者に質の高いサービスを提供できるように職員の教育や研修に力を入れている。 職員が定期的に自己評価をし達成度を確認しながら自己研鑽を積んでいる。 利用者ができることや、やりたいことを自ら判断し行動できるよう、職員は利用者のやる気を尊重して声かけと見守り中心の支援をしている。</p>

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえ、利用者一人ひとりが家庭的な環境の中で残された能力を活かし、尊厳ある生活ができるよう「気兼ねなく暮らせる第二の我が家」を理念に掲げ支援している。職員会議で理念を話し合い共有する共に、毎朝の申し送り時に唱和し実践に努めている。	「気兼ねなく暮らせる第二の我が家」との地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を掲げ、職員は毎朝の申し送り時に唱和し利用者一人ひとりが家庭的な環境の中で残された能力を活用し、尊厳ある生活を送れるよう支援するなど、実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の人々から白菜やキャベツ、ネギ、レタスなどの農作物のお裾分けが頻繁にある。利用者は近くの神社の夏祭りに家族等と共に参加したり、歌や踊り、読み聞かせのボランティアや保育園児が来訪するなど地域と日常的に交流している。	近所の人々から農作物のお裾分けがあったり、ボランティアや保育園児が来訪しているほか、利用者は散歩時に近隣住民と挨拶や会話を交わし日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人母体の行事などを一緒に行い、地域の方々を招待し交流すると共に介護支援専門員による介護相談を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、家族等の代表や市職員、地域包括支援センター職員、民生委員、消防署の職員、駐在所の職員、事業者代表で2ヶ月に1回開催している。会議では利用者様の状況や行事の報告、外部評価の説明、感染症の予防などについて話し合い、出た意見等をサービスの質の向上に活かしている。	運営推進会議は、家族等の代表や市職員、地域包括支援センター職員、民生委員、消防署職員、駐在所職員、地区代表で2ヶ月に1回開催している。 会議では前回の外部評価で取り上げられた検討事項や懸案事項について経過を報告したり、意見や情報の交換をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の時に市担当者や地域包括支援センター職員と事務所の運営状況を話したり、グループホームや特別養護老人ホーム等で構成する福祉施設事業所連絡協議会に出席するなど、市担当者と協力関係を構築しようと努めている。	管理者は市担当者と連絡を取り、利用者の暮らしぶりやニーズを具体的に伝え連携を深めている。 市担当者が出席する福祉施設事業所連絡協議会に参加し協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事務所で作成した身体拘束マニュアルを基に全職員でミーティングや研修を行い、禁止の対象となる身体拘束の行為を正しく理解するよう努めている。表玄関は通路に面しているため、危険防止の面から家族等の了解を得て施錠している。中庭に続くスロープへの出入口を利用者様用の玄関とし、散歩や洗濯物干しなど自由に出入していただいている。	代表者及び全職員は禁止の対象となる身体拘束の具体的な行為を正しく理解するとともに、全職員でミーティング時に研修を行い共有を図っており、身体拘束はしていない。 玄関前の道路は交通量が多いため、家族等の承諾を得て施錠をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング時に高齢者虐待防止法について、職員全員で研修を行い、虐待が見過ごされることのないように注意を払い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティング時に権利擁護に関する制度について、職員全員で学ぶ機会を作っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、十分な説明を行い、利用者や家族等の不安や疑問点を解決し、理解して納得していただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望などを言い出しにくい利用者や家族等に配慮して、無記名のアンケートを年2回実施し、サービスの質の向上に活かしている。また、利用者様の面会時や運営推進会議時には、必ず家族等の意見を聞くようにしている。	前回の外部評価結果で提案された無記名のアンケートを年2回実施し、出た意見等をサービスの質の向上に活かしている。 管理者は家族等の面会時や運営推進会議で意見を聴くよう努め、出た意見等を運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は定期的に職員と個別面談をし、意見や提案を聞く機会を設け反映させている。玄関に意見箱を設置しており、いつでも意見を言えるようになっている。	代表者は定期的に職員と個別面談を行い意見や提案を聞く機会を設けるとともに、出た意見等を運営に反映させている。 意見箱は利用者や家族等のほか、職員も無記名で自由に投書できるように活用されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常時事業所内に就業規則は備え付け、職員が必要なときに容易にみることができるようになっている。又、給与についても公務員に準じた給与規程により支給している。さらに、職員が必要な資格取得した場合昇給し、やりがいや向上心を持って働けるよう努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資格や職務経験、年数に応じて各種外部研修等に参加している。受講した職員は研修内容をミーティングで報告し、全員が研修内容を共有できるよう取り組んでいる。また、施設内の勉強会や研修も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	管理者は、市介護保険事業連絡協議会の施設サービス部会に積極的に参加し、地域との交流や情報交換を行い、サービスの質の向上に活かしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の説明の際に本人と面談し、本人の安心を確保できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の説明の際、家族等関係者と面談し、家族の安心を確保できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族等の面談により、今、必要としているサービスを見極め対応している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人と共に過ごしている中で、昔からの知恵や考えをきいて暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には全員運営推進会議の構成員になっていただき、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人には面会にきていただき、心ゆくまで話していただけるように支援している。	利用者の馴染みの人に面会に来てもらったり、手紙や電話などを通して連絡を取り合えるよう支援している。 法事や墓参りなどの外出を希望する場合は家族等に連絡を取ったり、職員が付き添い出かけられるよう支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同志の関係を理解し、話し合えるような場所と時間を提供している。レクの時間など参加していただき、楽しんでいただけるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移動が決まった時は、情報提供書を出し、本人の環境や暮らし方が継続的にできるよう配慮している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者や家族等の希望や意見を取り入れ、日々の生活の中で知り得た情報により、利用者の希望に添ったケアができるよう努めている。意思疎通が困難な利用者の場合は行動や表情から思いを把握するよう努めている。	職員は日々の暮らしの中で利用者との会話や行動から意向の把握に努めている。 夜間は利用者が職員に話をしに来ることが多く、職員は傾聴の姿勢をとりながら希望や意向の把握に努めている。 意思疎通が困難な利用者の場合は、表情やしぐさから思いを把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者のこれまでの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス内容が理解できるように、入居の際はミーティングに説明して把握できるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月毎の体重測定をし、BMIを算出している。また、毎朝血圧と体温を測定しながら声かけし、心身状態などの現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は利用者の日々の様子から職員の気づきを取り入れると共に、利用者や家族等と話し合い、意見等を反映して作成している。長期目標や短期目標を設定し3ヶ月毎に見直すほか、家族等の同意を得ている。	介護計画は利用者の日々の様子から職員の気づきを取り入れるとともに利用者や家族等と話し合い意見を反映してケアプラン会議で作成し、3ヶ月から6ヶ月毎に見直している。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合は現状に即した介護計画に見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果や気づき、工夫を個別記録に記入し、申し送りをしながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人が退院後など、本人も家族も心配なので家族も利用者の居室に心行くまで泊まっていたるように支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	白髪染めをしたい利用者には近くの美容院に行っていたり、公民館でやっている展覧会など興味のある場所に行っていたりするように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族等の希望に添ったかかりつけ医への受診を支援している。協力医療機関から毎日利用者全員の往診があり、昼間熱のあった利用者には夜間に再度診察に訪れるなど、利用者には手厚い支援をしている。受診結果については、電話などで家族等に報告している	利用者や家族等の希望するかかりつけ医の受診を支援しているが、現在は利用者全員が協力医をかかりつけ医としている。 協力医に毎日往診してもらい、職員は受診結果を電話で家族等に報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護職員がいるので、利用者の日常の健康状態や不安等伝え相談している。また、主治医も毎日来てくれているので適切な支援ができている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際は、本人・家族・病院関係者と情報交換や相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力医療機関と密に連携を図り、見取りを支援した経験がある。重度化した場合や終末期のあり方についてマニュアルを作成し、段階ごとに家族等と主治医と確認し、対応している。利用契約時に重度化した場合や終末期の対応について、利用者や家族等の意向を確認するほか、家族等から変更の申し出に対応している。	重度化した場合や終末期のあり方についてマニュアルを作成しているほか、利用者や家族等に対しては事前指定書を作成し重度化や終末期に向けた意向を確認しているが、全職員で共有するまでには至っていない。	利用者や家族等から確認した重度化や終末期に向けた対応の意向を全職員で共有することが望まれる。管理者や職員はターミナルケアマニュアルを共有して支援することを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員は、救急法を学び、急変や事故発生時に備えて実践力を身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回消防署立会いのもと、避難訓練を職員の役割分担を決め実施している。地域の人々に参加してもらい協力を得ている。災害時に備え、近くの法人母体の事業所で缶詰や乾パン、飲料水、米などを備蓄している。	年2回職員の役割分担を決めて避難訓練を実施するとともに、近隣住民にも参加してもらい協力を得ている。近くの運営母体の事業所に乾パンや缶詰、米、飲料水を備蓄している。	夜間を想定した避難訓練や、地震、水害など具体的な災害を想定した避難訓練を実施することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の人格を損ねない対応や言葉掛けに注意をし、支援している。広報誌等に利用者様の写真を掲載する場合は、事前に家族等の承諾を得ている。利用者様の書類は鍵が掛かる書庫に保管し管理している。	職員は利用者様の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけに注意するとともに、援助が必要な時もまずは利用者様の気持ちを大切に考え、さりげないケアを心がけ、自己決定できるよう支援している。 利用者様の情報は決してもらさず、家族等から個人情報使用に関する承諾書を得ている。	
37		○利用者様の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	朝起きた時に洋服に着替える際、何枚か用意し、どれがよいか選んでもらっている。お茶も何を飲みたいか聞いて、本人に選んでもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の体調、心の状態を大切に支援している。その人にとって大切なことは何かを一番に考えて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族より本人の好んだ服を持ってきてもらっている。着替えの際は、本人に選んでもらっている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	自家菜園で収穫した西瓜やナス、トマトなど季節の野菜を食材に取り入れている。昼食は同法人のデイサービスと同じ献立を提供すると共に朝食や夕食は利用者様と職員と一緒に食事を作り、職員は見守り介助をしながら一緒に食事をしている。利用者は食器拭きや後片付けなどを職員と一緒にしている。	献立や食材は業者に委託しているが、自家菜園で収穫した野菜を取り入れ利用者は皮むきなどの調理や配膳、下膳などできる範囲で食事の準備や後片付けをしている。 職員は利用者と同じテーブルを囲み、楽しく食事ができるような雰囲気づくりを大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量は食事毎にチェックしている。栄養バランスも高齢者の高齢者のための食事メニューを利用している。水分は10時、3時以外にも取っていただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアと夜の入れ歯の洗浄。自分の歯の方には歯ブラシにおける歯磨きをやっていただいている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表をもとに利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、タイミングを見計らって声かけするなど、排泄の自立に向けた支援をしている。	職員は排泄チェック表を活用し排泄パターンを把握するとともに時間を見計らって声かけや誘導を行い、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めに補給していただくようにしている。食材も野菜を多くし、繊維を多くとっていただくようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は基本的に一日おきと決まっているが、毎日でも入浴は可能となっている。入浴の時間帯は午前中が主であるが、利用者の希望に添って時間帯にこだわらない対応をしている。入浴を拒む利用者には「一番風呂はどうですか」など声かけを工夫しながら入浴支援をしている。	入浴は1日おきの午前中と決めているが、時間帯にはこだわらず利用者の希望にそった時間帯の入浴ができるよう職員のローテーションを工夫して対応している。 入浴を拒む利用者には声かけに工夫するなど無理なく入浴できるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中眠たそうな時は、布団に横になっていただいたり、ソファで横になっていただいたり休息していただけるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者内服一覧表を看護師に作っていただいております。内服や外用薬の確認ができています。変更がある場合には申し送りノートにより徹底して行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	庭いじりの好きな人、畑仕事の好きな人など、その人の得意なことをやっています。また、まんじゅう作り、洗濯物たたみをしていただいたり、午後デイサービスのレクにも参加していただいています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様は散歩をしながらおやつを買物をしたり、近くの美容室に行きたい人には行っていただいている。また外食や好きな買物などしたい方には家族の協力を得て支援している。	職員は天気の良い日には利用者が買物をしたり近所の神社やお寺の周りを散歩できるよう支援している。 年間行事に県内の名所見物を組み入れ利用者が外出を楽しめるよう支援している。 家族等の協力を得て馴染みの美容室や外食に出かけられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお小遣いを預かり、買いたい物がある時は一緒に行けるように支援している。お祭りの時は一人ひとり財布を持ち、露天商で好きな物を買っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が家族や親戚に電話を掛けたいと言っている時は、事務室から掛けていただいている。また手紙のやり取りをしたい人にはできるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関付近に季節が感じられる鉢植えを設置したり、共用空間にちぎり絵やぬり絵など利用者様の作品を飾っている。居室や食堂から中庭が眺められ、季節が感じられる造りとなっている。	玄関付近には季節の草花が植えられているほか、リビングからは緑あふれる中庭が見渡せ、景色を眺めながら居心地よく過ごせる造りとなっている。 共用空間にちぎり絵や塗り絵など利用者の作品を飾り、和やかな雰囲気を出している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	全員個室になっているので、独りになりたい時や面会の人に来た時は気兼ねなく過ごせる。また、気の合う人を自分の部屋に招き一緒にテレビを見たりして過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は床暖房で利用者様はベッドや移動できる畳など好みに合わせて利用している。居室に家族等の写真や好みの装飾品を持ち込み、居心地良く暮らせる場所になっている。全室ナースコール付で利用者様に安心を与えている。	利用者は使い慣れた家具や手作りの作品、鉢植えの草花などを居室に持ち込み居心地よく暮らしている。全室ナースコール付きで利用者様に安心を与えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は安全かつできるだけ自立した生活が送れるようにバリアフリーになっており、トイレもドアを開けると電気がつくようになって夜間も安全である。全室ナースコールもあり、いつでも職員を呼べるようになっている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)</p>	<p>○ 1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない</p>
65	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの広がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)</p>	<p>○ 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない</p>
66	<p>職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)</p>	<p>○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない</p>
67	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。</p>	<p>○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない</p>
68	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。</p>	<p>○ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない</p>

(様式4)

目標達成計画

事業所名 北向内荘

作成日 平成22年10月26日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	33	重度化した場合や終末期のあり方についてマニュアルを作成している他、利用者や家族等に対して事前指定書を作成し、重度化や終末期に向けた意向を確認しているが、全職員で共有するまでには至っていないという問題。	全職員で共有する。	重度化した場合や終末期のあり方についてのマニュアルや事前指定書について全職員で共有するため、会議で話し合い、全職員で共有する。	H22.11.4 会議予定
2	35	夜間を想定した避難訓練や地震を想定した避難訓練を実施していないという問題。	夜間を想定した非難訓練や地震を想定した非難訓練を実施する。	夜間を想定した非難訓練を実施した。その時に地震を想定した訓練の仕方も指導していただいた。今後も定期的に行う。	H22.8.25実施
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。